

令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録（学校ホームページ用）

1 日 時 令和8年5月15日（金） 14:00 ～ 16:00

2 場 所 本校 応接室

3 出席者

＜学校運営協議会 委員＞

企画運営部会 川島委員、早川委員

地域協働部会 原委員、松田委員、徳川委員、大島委員、山下委員

＜校内委員＞

平山校長、園田教頭、田島、高原、徳永

4 内 容

（1）学校長挨拶 14:00～14:05

○新しい委員の委嘱、委嘱状は次回配付

○探究活動報告書

○5/9 春の体験入学

○普通科改革1期生の卒業年度のため、進路の保障が課題。

○本校の魅力を持続可能なものにするために、地域の力を借りたい。

（2）議題

①出席者紹介（自己紹介）

14:05～14:20

②学校からの説明 14:20～14:45

（ア）本年度の学校運営協議会の体制について

（イ）グランドデザインについて

○年間方針の説明（スクールミッション、現代課題に対するアプローチ、生徒の自信をつける）

○「双松の力」をつける➡認知能力（教科の学力）＋非認知能力（探究で学びに向かう力）➡進路へ

○今年度の重点課題（①地域に信頼され選ばれる学校づくり、②新しいコース制における行内体制の確立、

③探究活動・課題解決学習の推進と必要なスキルの習得、④生徒が目指す多様な進路先の実現）

○スーパーバイザーの配置…今年度1年間のみ

○唐津市への協力依頼…唐津ラボ

（ウ）令和8年度学校評価計画について

○特別選抜は倍率が高かったが、全体では充足していないため、募集の努力・工夫が必要。

○学校魅力化促進事業モデル校として学校運営協議会を活用した学校の活性化につなげていく。

○SNS等を使ってより現代的な形で魅力発信をしていきたい。

（エ）「総合的な探究の時間」・「学校設定科目」について

○目標は「生徒の自走化」「持続可能な活動」

○学校魅力化評価アンケートでは、「この学校を中学生にすすめる」が全国平均より低い。生徒の自己肯定感を上げて数値の向上に努めたい。

○地域との連携は上がっているが、中学生へのPR活動をしっかりと行いたい。

○探究では生徒が自分で課題・問いをみつけて自分の軸をもつことが大切。1年生の前半に課題を見つけ、1年次に探究のテーマを設定する。2年次にテーマを深掘して3年次にキャリアにつなげていく。

【質問】14:45～15:15

○2年次にテーマを決めて探究するが、3年次になったら同じテーマを深掘するのか。

➡3年次には「進路探究」をするため、一旦2年次でテーマに対する探究は完結する。

○例えば同じようなテーマについて3年次に大学の講義を聴くなどはないか。

➡夢ナビライブなど、業者のコンテンツを使って興味のある分野を聞くことはできる。

- キャリアパスポートと探究関連のつながりはどのように行っているか。過去の活動の振り返りは。
 - ➡ベネッセ教材「キャリアナビ」を用いて振り返りや過去の活動の活用に活かしている。
- 大学生などの就職活動では、つまづきへのアプローチを行うことはとても重要な経験になる。活動や試行錯誤のログを残しておくことは重要なことである。
- AIの教材活用と人間ならではの活動のバランスは。
 - ➡活動を通じて視野を広げ、様々な視点を持つことが重要で、最後は人と向き合って考えることが重要であると考え。
- 探究活動はすぐに成果が見えにくい。総合型選抜を受験した生徒や、進学先で探究がどのように活きたかを卒業生が学校に還元するようなサイクルを作る仕組みを作っていただきたい。
 - ➡成果としては探究を通じての学び・成長を重要視している。今後は西高として、目玉となるテーマを引き継いでいけるようなシステムが作れれば。そのシステムづくりのためにはまずは成果も必要となる。まだまだ時間かかると思う。大学入試でも探究の目に見える成果だけでなく、その過程で成長したことも生きてくる。成果だけでなく、どのような力をつけるかということをしかりと持っておきたい。
- 3年次まで探究を続け、その探究の継続を大学進学モチベーションにしているケースもある。3年次まで継続して探究することを考えてみては。
 - ➡現在検討している。1年次から様々な活動を継続して行う必要もあり、時間がないのも現実。
- 宿題や教科学習と探究とのバランスをとることも生徒にとっては課題であるようだ。
 - ➡学力は大学入試を考える上では必ず必要。高校生として勉強や部活などやりたいこととやらなければならないことのバランスをとることも学びではないか。

③協議

- (ア) 効果的な外部連携の在り方について（探究サポーター、スーパーバイザー、探究ルーム等）
- 生徒の「探究委員会」を立ち上げる。学校運営協議会に参加させてはどうか。
 - ➡地域協働部会に入ってもらって、一緒に考えていければ。
- 探究サポーターの活用について
 - ➡・探究の伴走をイメージしていたが、スポット的に来てもらってアドバイスをいただく形だった。課題として、目的や内容を生徒が説明できないケースがあった。生徒や職員からは専門的な知識をアドバイスしてもらう形でなく、探究活動の進め方を伴走してもらえるとありがたいと思った。
 - ・探究の専門分野に関わらず、様々な人に広く探究のサポートをお願いするシステムを考えてはどうか。
 - ・地域の中でも高校生とコラボしたいと考えている人はいる。地域から高校生に協力できる人を募るシステムがあってもよいのでは。
- (イ) その他
- 探究に関する先生方の悩みなどをアンケートをとるなどして、サポートしていきたい。
 - ➡探究活動を進めながら困り感などを吸い上げていきたい。
- 持続可能な活動にするためには予算が必要。
 - ➡寄付を募ったり、年度繰り越し可能な基金作るなど今後検討。

5 今後の予定

- ◇第2回 令和8年7月1日（水） 14：00～16：00
企画運営部会…学校経営に係る協議（予定） 地域協働部会…総探での連携・協働
 - ◇第3回 令和8年11月11日（水） 14：00～16：00
企画運営部会…学校経営に係る協議 地域協働部会…総探での連携・協働
 - ◇第4回 令和9年2月12日（金） 15：00～17：00
企画運営部会…学校評価最終報告 地域協働部会…総探での連携・協働
- ※企画運営部会の委員の方も、総探へのご参加やご支援をお願いいたします。